

第 2 回水環境創造プラン検討委員会 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

(1) 開会

平成 18 年 10 月 24 日 (火) 午後 2 時 00 分

(2) 閉会

平成 18 年 10 月 24 日 (火) 午後 3 時 30 分

2 開催場所

岡崎市福祉会館 6 階 大ホール

3 出席委員及び欠席委員等の氏名

(1) 出席委員

富永晃宏、芹沢俊介、丸山泰男、飯尾歩、長谷川明子、山田鑛二、金澤博敬、山本恵一、安達重美、大久保正五、内村文夫 (代理 中野泰男)、中津川誠 (代理 鈴木信広)、吉田勇次、石川優、川嶋直樹

(2) 欠席委員

片山幸士、天野博

(3) オブザーバー

企画政策部長 太田恒治 (代理 企画政策部次長 仲条紳一)、総務部長 坂田吉久、市民文化部長 牧野嘉明、経済振興部長 鈴木保宏 (代理 経済振興部次長 酒井功二)、土木建設部長 小野博章、都市整備部長 三浦千秋、下水道部長 荻野亨、消防長 平山雅之 (代理 消防次長 杉山勉)、水道局長 高橋利明

4 説明のための出席した事務局職員の職氏名

環境部長 柴田宗男、環境部調整監 山本恵一、環境保全課長 杉浦哲矢、環境保全課副主幹 糟谷慶一、環境保全課主任主査 蜂須賀功、環境保全課技師 大口光生、企画課主幹 齊藤勝英

5 議題等

アンケート結果について ほか

6 議事の要旨

(1) 議題 1 アンケート結果について

- ・アンケートの回収率が低いように感じる。原因として考えられることはあるか。

(D 委員)

岡崎市実施の他のアンケートと比較すると、回収率は低い。しかし、特に原因として考えられる事項はない。(事務局)

- ・ブロック全体で集計した場合と、ブロックを流れる川の上流・中流・下流と区間を区切って集計した場合では傾向が異なる可能性があるのではないか。(L 委員)

参考として支川別の集計も行っている。(事務局)

- ・「水の量」、「水の質」等項目別に得点づけされている。どのように評価したのか。(G 委員)

アンケートでは 5 段階評価で質問への回答する形式になっている。回答者全員が評価「5」の場合を「100 点」、回答者全員が評価「1」の場合を「0 点」としたときの点数である。(事務局)

- ・例えば 50 点を超えればよい等、得点の判断基準はあるか。(G 委員)

得に基準は設けていない。将来同様のアンケートを実施し、満足度等の変化をモニタリングしたいと考えている。(事務局)

- ・環境を話し合う会の回答者を見ると、年齢や性別に偏りがあるように感じる。

(M 委員)

環境を話し合う会の参加者は町内の役付者が多かったため年齢が高めになり、性別も男性が多くなっている。(事務局)

環境を話し合う会の結果はアンケート結果を補足する目的で整理したものである。(事務局)

- ・環境を話し合う会は 19:00 から開催されており、主婦は参加が難しい時間帯である。開催の時間帯を検討して欲しい。(I 委員)

- ・鹿乗川の浸水頻度や浸水が発生する雨量が分かれば教えて欲しい。(E 委員)

毎年床下浸水は発生している。また、やや強い雨程度でも浸水被害が発生するようである。(事務局)

(2) 議題 2 年間水収支について

- ・将来予測や森林保全効果等が予測につながればよいと感じる。(O 委員)

- ・各種対策が将来予測に反映できるかが心配である。(M 委員)

将来予測や対策効果は今後検討する予定である。(事務局)

(3) 議題 3 汚濁負荷収支について

- ・下水道の整備効果は検討しないのか。(I 委員)

今後検討していく予定である。(事務局)

- ・ある程度の期間自宅を留守にしていた間に下水道工事が終了しており、接続をどうす

るか等の対応についても何の連絡もない。合併処理浄化槽設置の推奨等の PR は行っているのか。(I 委員)

合併処理浄化槽設置の啓発は積極的に実施している。ただし、全戸を訪問しているわけではない。また、下水道工事実施の際は地元説明会を実施し、欠席者には資料を郵送し、質問を受け付ける等の対応をとっている。(事務局、オブザーバー A)

・水質は、全地点で環境基準値の達成を目指すのか。環境基準値以上の水質の実現を目標とするのか。(G 委員)

まずは全地点での環境基準値の達成が目標である。今後の議論の中で生物指標等の導入の可能性もあると考える。また、必要に応じて窒素やリンについても負荷収支の計算をすることも考えている。(事務局)

・公共下水道での処理結果はどのように算出しているのか。(M 委員)

公共下水道(八帖処理場)からの処理水排水を「特定排出源」として計上している。
(事務局)

・「水質及び水量を改善するには、」として各種対策が列記されているが、大半が水質改善のための対策ではないか。(C 委員)

「水質を改善するには、」と表現を改める。(事務局)

(4) 議題 4 基本方針の方向性検討

・アンケート結果、年間水収支や汚濁負荷収支の検討結果を反映した基本方針にするべきではないのか。(M 委員)

・事務局提案の基本方針は良いと感じる。他県、他市の事例を調べてみても、キャッチフレーズがうまく設定されていれば、計画の推進もうまくいくと感じる。(G 委員)

・水質悪化の原因として、生活系の排水が占める割合が高いことは分かった。しかし、対策の方向性として目玉となるものがない。(J 委員)

・小規模な下水処理施設を高いところに設置して処理水を川に流す、または中水道として利用する。あるいは流域下水道の処理水を還流する等の対策を本プランに盛り込めないか。(J 委員)

意見として受け取る。事務局としても、岡崎らしさを出したいと考えている。対策に必要となる費用等も考慮しながら検討を進めたい。(事務局)

流域下水道の処理水還流については、関係機関と協議中である。(L 委員)

・国土交通省では、新しい水質指標として「川底がヌルヌルしていると感じる」や「顔を川の水につけやすい」等を取りまとめた。参考にならないか。(L 委員)

環境省や愛知県でも新しい水質指標を検討していると聞いている。本プランにも反

映することを検討したい。(事務局)

- ・「子どもが遊ぶことができる川」というのが市民にとって分かりやすいと考える。基本方針に反映できないか。(B委員)
- ・「ホタル」等特定の種を基本方針等に掲げた場合、自然発生を目指す場合は問題ない。しかし、他流域からの積極的な移植に取り組むと誤解されることは好ましくない。表現に注意が必要である。(B委員)
- ・雨を「ゆっくり流す」と表現した場合、川を流れる水の流速を小さくするものと誤解されることを懸念する。降雨から流出までの時間を長くすることを目指すものであり、表現に注意が必要である。(B委員)
- ・例えば体験学習や川くだり等で川が汚れていく過程を見た子どもは、川を汚している原因が自分たちであることを認識する。(D委員)
- ・市民が主体的に、直接水環境の創造に取り組むべきであり、市民に協力をお願いするような表現は避けるべきである。(D委員)
- ・行政の役割としては、市民が活動しやすくなるような状況をつくりだすことが重要である。(D委員)

(5) 議題5 質疑応答

- ・関連する各議題に記載。

7 その他

- ・本部会の内容は公開とし、会議録は委員長の他、芹沢委員、丸山委員が内容の確認、了承を行う。(決定事項)
- ・第3回検討委員会は、平成19年2月の開催を予定している。詳細は決定次第、事務局から連絡する。(事務局)

【配付資料】

第 2回 水環境創造プラン検討委員会 議事次第
第 2回 水環境創造プラン検討委員会 出席者名簿
第 2回水環境創造プラン検討委員会 全体配席図
資料 -1:アンケート調査結果
資料 -2:環境を話し合う会における水環境に関する意見表結果整理
資料 -3:年間水収支モデルによる水環境の把握
資料 -4:汚濁負荷収支の把握
資料 -5:優先する基本方針案
参考資料 1:第 1回水環境創造プラン検討委員会会議録
参考資料 2:第 2回水環境創造プラン乙川部会会議録
参考資料 3:アンケート、年間水収支、汚濁負荷収支の補足資料

会議録署名者

水環境創造プラン検討委員会委員長 富 永 晃 宏

水環境創造プラン検討委員会委員 芹 沢 俊 介

水環境創造プラン検討委員会委員 丸 山 泰 男